

選考委員賞

保健所の犬について

御田小学校 根岸 遥香

みなさんはペットショップで売れのこった犬が保健所で殺処分されていることを知っていますか？私は、ペットショップでは全ての犬が必ず売れるとは限らないと気づき、では、売れのこった犬はどうなるのかが気になって、売れのこった犬について調べてみました。

私が調べてとても印象だった事は3つあります。

1つ目は、千葉県のある保健所に平成23年に入ってきた犬が少なくとも176頭もいることです。1176頭。みなさんにとっては多少少なく感じるかもしれませんが、しかし、千葉県の中のたった1つの保健所で年間1176頭なのです。千葉県の全ての保健所、いや全国全ての保健所に1年間に入ってくる犬の数はどれだけの数か想像できるでしょうか？また、犬一頭一頭にそれぞれ大切な命があります。人間は自分達と変わらない大切な命を、こんなうばっていつているのです。この事に対して、人間は自分達が飼うと決めた動物に対し、責任をもってほしいと思いました。

2つ目は、いらなくなった動物達は、ガス室の中で二酸化炭素をすってちっそく死をさせられています。それにかかる時間が、短くても10分以上、長ければ1時間ちかくかかる事です。しかもそれは安楽死でなく、苦しくてもがき続けて死んでいくそうです。これは、私も調べるまでは安楽死だと思っていましたが、安楽死ではない事におどろきました。なぜ、人間と同じ、または人間よりも純粋いな心をもつ犬達が、人間の勝手に殺されてしまうのでしょうか。私は、大人になったら、こうした犬の処分数をもっと減らしたり、処分を安楽死にするなどという取り組みに参加し、ボランティアに協力し、実行していきたいと思いました。

3つ目は、ガス室につけられたモニターで犬の死を確認、犬が焼却炉で焼かれ、焼いた後は産業はいき物として処分される事です。産業はいき物。産業はいき物です。命なのに、物としてあつかわれているのです。これほど悲しい事はありません。私は、ペットショップで売れのこって最終的に物として処分される犬の気持ちを思うと、とても申し訳なく感じます。

これからは皆さんも犬と接する時は、何も話す事のできない犬の気持ちを考

えてみながら接してみてください。そして、飼い主になったら、最後まで責任をもって育ててください。これから、私も自分の今できる最大の事を、がんばっていききたいと思います。

講評

ペットという身近な題材をもとにして、人と生き物とのかかわり方について問題をつかみ、その事実を読み手に伝えようとする意欲が読み取れる。ペットとの問題を考えることは、「足元から行動する…」「ことにつながる内容である。」